

ゆったり流れる時間 人と人が出会う場所

小川原の作品をはじめ、すてきな作品の数々が
私たちを出迎えてくれる魅力あふれる美術館。
そんな美術館で、2014年から8年間、館長を
務めた柴さんに話を聞きました。

すてきな眺めと まったり過ごす

この美術館には展示室に加え、雄大な羊蹄山を望める素晴らしいロビーがあります。ここは小川原脩のすてきな作品を楽しむことはもちろん、好きなように過ごせる自由な空間です。人々がのんびり交流できる場所でもあり、ロビーの椅子にひとり腰を落ち着かせ、まったりとした時間を過ごすこともできます。私もコーヒーを飲みながら四季折々の羊蹄山を眺めることが大好きでした。

これからも 変わらない姿で

美術館が開館してから25年という長い時間が経ったことは、大変喜ばしく思います。美術館の要である作品を最良の状態で鑑賞してもらえるよう、数十年先を見据えた保管方法の工夫やデータベース化にも取り組みました。今後も変わらず小川原脩記念美術館が、作品を楽しみながら、訪れた方が自由に気軽に交流でき、ゆったりと過ごせる場所で在り続けてほしいと願っています。

柴さんと 美術館の出会い

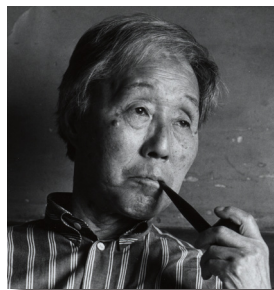
主にフランス美術を専門とし、北海道立美術館の学芸員を30年以上務める。
北海道立近代美術館で小川原の個展を開催した際には、担当としてアトリエにも出向き、小川原と交流をした。



小川原脩記念美術館
前館長 柴 勤 さん

たくさんの人が 訪れる美術館に

「美術館に行きづらい…」そんな声から、さまざまなイベントを始めました。現在でも、学芸員の話しを聞きながら美術を学べる『土曜サロン』や地域の方との交流を楽しみつつ、作品づくりの体験ができる『ワークショップ』、さまざまなジャンルの音楽が楽しめる『ミュージアム・コンサート』などが行われており、ひとりでも多くの方が美術館を訪れるきっかけになっていると思うとうれしいです。



(撮影：佐藤雅英)

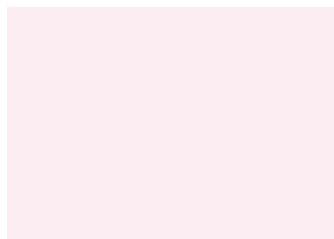
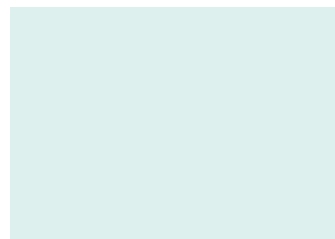
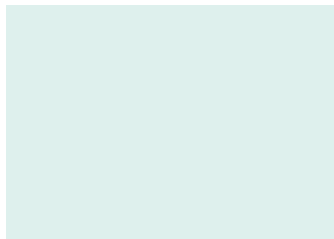
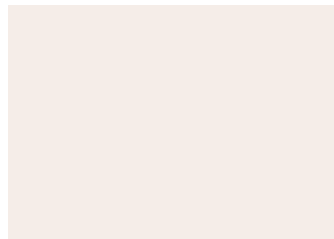
おがわら しゅう 小川原 脩 1911 - 2002

1911年1月21日、倶知安村（現倶知安町）に生まれ、13歳のとき友人から道具を譲り受け、油絵を描き始める。北海道庁立倶知安中学校（現倶知安高等学校）卒業後、東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科入学。在学中に当時最大公募展の帝展に「納屋」（1933年）で入賞。卒業後、福沢一郎らと「美術文化協会」などを結成。戦時中、軍の命令により戦争記録画を制作。戦後は倶知安に戻り、1958年に「麓彩会」を創立。70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドで創作の新境地を切り拓いた。



特集 小川原脩記念美術館開館 25 周年

安らぎと豊かさを



町民に愛される まちのミュージアムに

開館25周年を記念して5月25日(土)には、小川原脩記念美術館のプロポーザルコンペで最優秀賞を受賞し、倶知安風土館を含めたエリア一帯の建築・設計を行うなど、美術館建設に深く関わった建築士の井端明男さんによる地域文化講座『25年の時間と建築、そして風景』が、同館で行われました。

倶知安町で生まれ、地域の画家たちとともに『麓彩会』を創立するなど、この地域の美術・芸術に大きな影響を与えた画家・小川原脩。
「町内に住む画家・小川原脩の作品を後世に残したい」と願った多くの町民の思いが実り、平成11年11月3日に開館した『小川原脩記念美術館』は、今年で開館25周年を迎えます。

講演の中で井端さんは、「コンセプトは『町民に愛されるまちのミュージアム』。外観は、羊蹄山やニセコ連峰など、周辺の景色と調和した柔らかなで静かな佇まいを意識した建築を心掛けました。展示室は、あくまでも作品が主役であることから、『建築は背景・風景』となるように、照明や装飾もシンプルにして、絵の邪魔をしない空間としました」と、当時の思い出や美術館建設に込めた思いなどを、集まった多くの参加者に向けて話しました。



建築士 いばた あきお
井端 明男 さん

しりべしミュージアムロード

後志管内の4町に点在する5つの美術館・文学館を結ぶルートの中で、地域ゆかりの芸術家をテーマにした個性あふれる施設を、

後志の豊かな自然とともに楽しめるドライブコースとしても親しまれる。

巡ってみよう⇒⇒

しりべしミュージアムロード

開館
25周年!

小川原脩記念美術館

沼田副館長に聞きました!

開館時間 9時～17時(入館16時30分まで)
休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 一般500円、高校生300円、
小中学生100円(未就学児無料)

羊蹄山と向かい合う小高い丘の上に佇むシンプルな当館は、心地よい空間でゆっくりとした時間を過ごせます。倶知安出身で戦後、道内画壇を牽引した小川原脩の油彩画を所蔵し、常設展では動物やアジアの風物を描いた優しく包まれるような作品世界が楽しめます。地域ゆかりの作家を紹介する企画展やさまざまなイベントも開催しています。

倶知安町

開館
25周年!

西村計雄記念美術館

佐藤学芸員に聞きました!

共和出身の西村計雄の油彩画約5,400点を所蔵する美術館です。ピカソの画商・カーンワイラーに「和菓子の色」と評された色彩と、たおやかな線が特徴の作品は「東洋と西洋の美を融合した」として、ヨーロッパを中心に高く評価されました。当館では西村作品を多角的に紹介する展示や、アートで楽しむさまざまなプログラムを実施しています。

開館時間 9時～17時(入館16時30分まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 一般500円、高校生200円、
小中学生100円(未就学児無料)

共和町

開館
35周年!

荒井記念美術館

加藤学芸員に聞きました!

岩内岳の中腹にある美術館です。当館が所蔵するピカソの版画作品は初期から晩年まで267点あり、日本最大級です(もちろんすべて本物!)。ピカソのほかに有島武郎の小説「生れ出づる悩み」を題材とした作品や、西村計雄の油彩画もあり、年2～3回展示替えをしています。

開館時間 9時～17時
(入館16時30分まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 一般千円、大学・高校生700円、
小中学生400円(未就学児無料)

岩内町

ニセコ町

伊藤学芸員に聞きました!

「相互扶助」思想のもと画期的な無償解放を行った有島武郎の農場跡に設立され、有島の生涯や思想、農場の足跡を紹介する常設展示室のほか、若手画家に焦点を当てた美術展や、はり絵作家・藤倉英幸さんの作品展を随時開催しています。羊蹄山などを一望できるブックカフェでは、有島作品から着想を得た自家焙煎コーヒーなどを楽しめます。

有島記念館

開館
75周年!

開館時間 9時～17時(入館16時30分まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 一般500円、高校生100円
(中学生以下無料)

木田金次郎美術館

開館
30周年!

岡部館長に聞きました!

岩内で生まれ育ち、有島武郎の小説「生れ出づる悩み」の主人公のモデルとなった木田金次郎の作品を展示しています。町民主導の設立運動により開館し、木田をはじめ、多くの画家たちを生み出した「絵の町・岩内」を実感できる、岩内や地域に根差した企画展やさまざまなイベントを実施しています。

開館時間 10時～18時(入館17時30分まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、
12月～3月
観覧料 一般600円(高校生以下無料)

「しりべしミュージアムロード共同展」など、小川原脩記念美術館のイベント情報は18ページで詳しく紹介しています。